

《私の財布を盗ったのは誰だ！》

【悪い例】

嫁	(夕食の支度をしている。)
お母さん	あれえ～どこにやったかねえ。
嫁	(後ろから声をかけて) お母さん！どうしたの！
お母さん	(びっくりして) うわ！びっくりした…。
嫁	お母さん、さっきから何をしていますか？
お母さん	ないんだよ。私の財布が。知らないかい？
嫁	ええ？ほんとに？落としてきちゃったの？
お母さん	ないんだよ。
嫁	いつも持っていくカバンの中にあるんじゃないですか？
お母さん	探したよ。
嫁	よく見たんですか？この間もないない言って引き出しとかぐちゃぐちゃにして探して、結局かばんに入ってたじゃないですか！1週間前も同じことありましたよね！
お母さん	かばんの中はよーく見たよ。ないものはないんだ。もしかして… 最近コロナウイルスの影響でパートの仕事がなくなって生活が苦しいって言ってたから、あんたが盗んだんじゃないの？
嫁	そんなわけないでしょう！
お母さん	生活が苦しいって割には、こんな、派手なエプロン買ったたりしているし、自分だけいい思いばかりしているの、知っているんだから！
嫁	生活が苦しいのは、本当だけど、私は盗んだりしてないです！
お母さん	あんたの金遣いが荒いから悪いんだ！早く返しよ。
嫁	ちょっとお母さん、いい加減にしてください。まったくもう！（戸棚を空ける） あっ！お母さん、こんなところにあるじゃない！もう！やっぱりお母さんが間違えてしまったんじゃないですか！（怒る）
お母さん	(シュンとする)

ナレーター

お母さん、物忘れは見られますが、身体はいたって元気です。自分の身の回りのことだって、しっかりできていると思っています。

今回は、お母さんが時に、思わず財布も押し入れの中に入れてしまったようです。

誰でも、車の鍵などをしまい忘れたり、たまたまいつも置く場所に置かなかったりというのは、やってしまうことがあるかと思いますが、

認知症の方は、いつもと違った場所に財布や通帳をしまい込むと、そこにしまったこと自体を忘れてしまいます。

ですが、本人としては「自分はしっかりしている」という気持ちから、「なくすはずがない」という思いが現われ、結果として、最も身近で世話をしてくれる人に当たってしまうこととなります。

しかし、この症状は、本人の性格や周囲の理解、人間関係などが影響して出現する「行動・心理症状」ですから、なくしたものが出てくれば収まることもあり、時期がくれば自然に見られなくなります。

【良い例】

ナレーター	次に、望ましい対応を見てみましょう。
嫁	(夕食の支度をしている)
お母さん	あれえ〜。どこだったかなあ〜。
嫁	(横から視界に入って驚かせないようにして) お母さん、どうしましたか？
お母さん	ああ●●さん、ないんだよ、財布が。
嫁	そうなの？それは大変ですね。一緒に探しましょう
お母さん	ありがとう。いったいどこにいったんだか。誰かに取られちゃったんかね。
嫁	うちに帰って来たときは？カバンの中に入ってなかったですか？
お母さん	どうだったかなあ。あったような気もするんだけど…。
嫁	お母さん玄関見てみてきてください。(台所へ行く) この前も、あらぬところから出てきたからな…まさかとは思うけど…(冷蔵庫を開ける) あっ、こんなところに！ よお母さんが見つけられるようにしよう。(冷蔵庫の上に財布を置き直す) おかあさーん！台所一緒に探してくれますか？
お母さん	はいよー。やっぱり玄関にはないわよ。
嫁	こっち一緒に探しましょう。よーく思い出してみて。帰ってきてカバン置いたところとか、野菜を冷蔵庫に入れたりとかしませんでしたか？
お母さん	そうだねえ。冷蔵庫…あ！あったよ！こんなところに！あらまあー。
嫁	ほんとだー！お母さん、野菜をしまうために財布を一度置いたんですね。とにかく見つかってよかったです！

ナレーター

先ほどとは違い、お母さんを驚かせたり、焦らせたりしないように接していましたね。

お母さんも、お嫁さんが穏やかな対応をすることで、先ほどのように怒ったり相手を疑ったりしませんでした。

認知症の人と接する時の心構えとして、3つの「ない」があります。

1. 驚かせない

お母さんに話しかけるとき、後ろから突然声をかけて、お母さんをすごく驚かせてしまったよね？みなさんが考えてくれたように、話しかけるとき、前からや横から、やさしい口調で声をかけましょう。また、認知症の人が困っている時はとても不安な気持ちですので、出来れば話しかける時は1人で、1対1で話をするようにしましょう。

2. 急がせない

認知症の人と接する時、こちらも緊張してしまったり、動揺してしまうかもしれません。でも、こちらが困惑したり焦りを感じていると、相手にも伝わってしまい、動揺させてしまいます。焦らせずに、相手に視線を合わせて、優しい口調で接するように心がけましょう。

3. 自尊心を傷つけない

認知症の方は、何も出来ない・わからないと思うは大きな間違いです。自分の異変に気づき、焦りや不安、悲しみを抱えているのは他の誰でもなく本人です。手助けをする時にも、決して踏み込みすぎず、本人が自分でできることは自分でやってもらうようにし、自尊心を傷つけないように心配りをお願いします。